

CONTENTS

1 どれだけの本をつくれるか。

外国語学部講師：中村 督

2 先生おすすめの本

人間関係における学びを支持する
ファシリテーション

人文学部教授：津村 俊充

4 あなたにとって図書館ってどんなところ？

Pt.1 アンケート結果

Pt.2 座談会-人類文化学科生に聞く-

11 図書館研修を体験して

図書館研修生：平川 真帆

12 秋学期図書館利用講習会のお知らせ

院生 TA 紹介

南山大学図書館 秋の企画展のお知らせ

編集後記

どれだけの本をつくれるか。

中村 督

こういったことを書くことになるとは思いませんでした。そういうふうになると、ようやく教員という立場から書物あるいは書物に纏わるあれこれを語ることができるようになったのだと推察されるかもしれません。しかし事情はまったくちがいます。

この間まで—というにはやや時間が経ちましたが一学生であった私は、「教員のすすめる本」や「某の名著」のような冊子をみて「自分なら何を挙げるだろうか」と考えることがありました。その頃でこそ妄想を逞しくして迷ったものですが、実際に考えてみるとそれは存外に簡単な作業です。韋編三絶して読んだ本ならたくさんあって、それらしいものを並べればかたちになります。また、私は歴史研究を専門とすることもあって図書館や文書館に関しては一家言あるのもたしかです。なにしろフランス留学中は読む、観る、食べるというサイクルをひたすら繰り返していました。であれば、ここでこそ、ともすれば有用性に乏しいとされる知識の一端を提出すべきなのかもしれません。

しかしながらそれは避けます。なぜなら複数の書物を列挙したところで読まれるような気がしないからです。これまでこの図書館で結構な量の本を借りましたが、名著の部類に入る本がほとんど借りられていない、いや、それどころか私自身が最初の借り手であるということが少なくありません。帰納的推論をはたらかせるなら次にそれらが読まれる可能性

はきわめて低く、推薦の効果に然したる期待はもてません。

これは一体何を意味するのでしょうか。戦後フランスの著名な文学者ロラン・バルトは、テキスト（書物）というのは読者がいてはじめて成立することを説いています。すなわち通念的には著者、テキスト、読者の方向で矢印があると思われがちですが、理論的には人がテキストを読んでこそそれがテキストとして存在し、結果的に著者が存在することになるわけです。これを敷衍するなら、図書館には相当数の本があるものの、物質的に紙の塊として無機質に陳列されているものがいまだ多くあることになります。「本」のようなものはあっても本ではない状態にあるわけです。

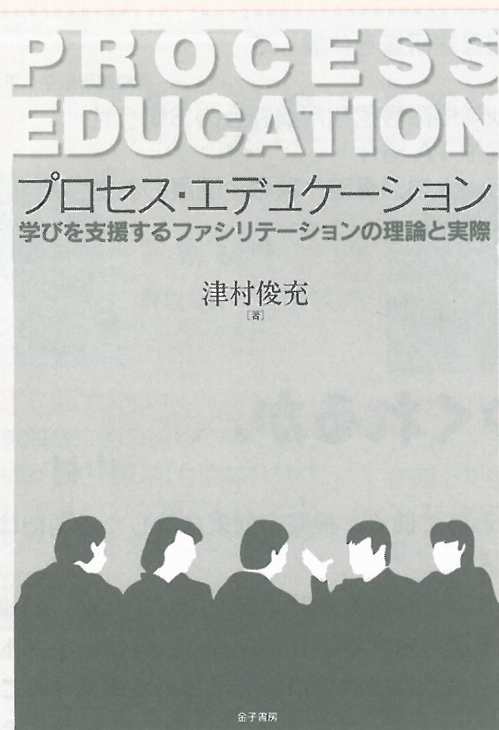
私はかつて「本を読みなさい」という台詞がまるで説教のようで、いわれていい気がしませんでした。したがってそれをいうのはなんだか憚られるものがあります。にもかかわらず、帰趨するところ、本を読むことを強く勧めざるをえません。一冊の書物は知の地平を拓くだけでなく次なる読書を教唆するはずで。携帯電話に割く時間のわずかでよいので本を手にとることをしてみてください。南山大学には他に誇れる数の「本」があります。みなさんが一つでも多くの本をつくることに貢献されるのを願って止みません。

(NAKAMURA, Tadashi : 外国語学部講師)



人間関係における学びを支持する ファシリテーション

津村 俊充



津村俊充 著

『プロセス・エデュケーション
—学びを支援するファシリテーションの理論と実際—』

金子書房, 2012年

【請求番号：361.5/2825】

2冊の書籍を紹介します。1冊目は2012年に出版された「プロセス・エデュケーション」です。本書はプロセスに着眼した教育の必要性と実践事例が紹介されたものです。もう1冊は、2013年刊行の「実践 人間関係づくりファシリテーション」という書籍で、人間関係づくりの教育実践に焦点をあてた出版物です。

学生のみなさんは、「ファシリテーション」とか「ファシリテーター」という言葉を聞かれたことがありますか？

現代社会では、企業活動の中でハイパフォーマンスを得るためのプロジェクトチームづくり、住民一人ひとりが住みやすい地域コミュニティづくり、異業種の人たちが集まりイノベーションを生みだすことができる場づくりなど、さまざまな領域や場面でコミュニケーションを豊かにし、集まったメンバーがよりクリエイティブになるチームづくりを容易にする働き（ファシリテーション）ができる人（ファシリテーター）が求められています。みなさんは大学を卒業しているいろいろな職場で働くことになると思いますが、私はこのようなファシリテーション力を、我が南山生に身につけて欲しいと思い、ファシ

リテーションを学ぶことができる場を授業の中で提供しています。

「プロセス・エデュケーション」では、「ファシリテーターとは、プロセスに働きかける（介入する）ことを通して、グループの目標をメンバーの相互作用により共有し、その目標を達成することとメンバー間の信頼感や一体感を促進する働き（ファシリテーション）をする人」と定義されています。本書では、キーワードになる「プロセス」の見方やその「プロセス」への働きかけの選択肢を考えるアイデアがたくさん掲載されています。

「プロセス」とは、人間関係の中で起こる心理的なダイナミクスのことです。「プロセス」を理解することは難しいのですが、この「プロセス」に気づきそれに働きかけることができれば、個人やチームは大きく成長すると考えられます。私たちが仕事をしていると取り扱うテーマや課題はテーブルの上に取り上げて扱いますが、心の中で起こっている気持ちや考えは言葉にせず、テーブルの下 (under the table) の問題、隠された議題 (hidden agenda) として公に取り扱われることが少ないのです。実際に、この隠された議題であるプロセスに気づき、それらを個人やグルー



津村俊充・星野欣生 編

『実践 人間関係づくりファシリテーション』

金子書房, 2013年

〔請求番号：361.5/2819〕

に続いて、2冊目の「実践 人間関係づくりファシリテーション」が出版されました。グループワークを通して人間関係のありようを学んだり、チームづくりを促進したりすることをめざしたファシリテーターのために書かれた本です。「ファシリテーションの人間観」と「教育プログラムをつくる」の2つの章においてファシリテーターとしての基本的なありようが示されるとともに、人間関係づくりトレーニングの実践において核となる以下の10のテーマをとりあげ、学習者とともにかかわるファシリテーターの実践を紹介しています。座学として学ぶだけではなく、体験を通してともに学べるように、楽しいエクササイズを紹介しながら、本書でも体験学習が学校や企業、地域やコミュニティの世界まで広がりをもつ可能性も紹介しています。

テーマとして、「場をつくる」「ひらく」「観る」「気づく」「受け容れる」「決める」「働きかける」「ふりかえる」「共に成長する」「つながる」の10のトピックスをとりあげ、人間関係づくりの学習場面におけるエッセンスとして各章いくつかの小講義が掲載されています。

これら2冊は、現代社会の中でファシリテーターとして必要な知識とスキルを学ぶために役に立つテキストになると考えています。

社会の中で人と関わりながら、個人やグループ・組織を積極的に改善し変革する担い手になる人のことをチェンジエージェントとよばれ、これからの時代においてとても重要な人材として求められるでしょう。大学生としてそれぞれの学部での専門性を身につけるとともに、ファシリテーション力を身につけ、本学のモットーである「人間の尊厳のために」さまざまな社会で働くことができる態度とスキルをこれらの本からも身につけてもらいたいと考えています。

プで取り扱ってはじめて健全な関係が生まれると考えられています。

人文学部心理人間学科の専門科目「人間関係プロセス論（ファシリテーション・アプローチ）」の受講者は、この本をテキストに用いながら、グループワーク体験を通して、ファシリテーションを学んでいます。本書の中では、具体的な体験学習の事例として、自己成長のためのプログラムの紹介もありますので、自分のことをもっと知りたい、もう少し自分は変わりたいと思われている方はこの章を読むことでヒントが得られるかもしれません。また、グループや組織変革に向けたアクションプランニングモデルや組織・コミュニティ変革のためのフューチャーサーチといったユニークなプログラム例の紹介もされていますので、関心があるところから読まれるとよいでしょう。

本書の後半には、少し専門的な知識と経験が必要になりますが、実際にグループワークを実施したいと考えられている人のために、グループワークなどの体験から学ぶための教材とその進め方なども掲載されています。

2013年には「プロセス・エデュケーション」

あなたにとって図書館ってどんなところ？

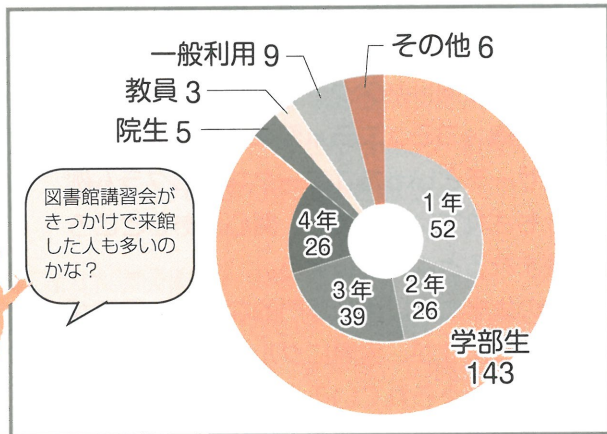
利用者の皆さんが何を求めて図書館にやってくるのかを知るために、アンケートと座談会を実施しました。

Pt.1 アンケート

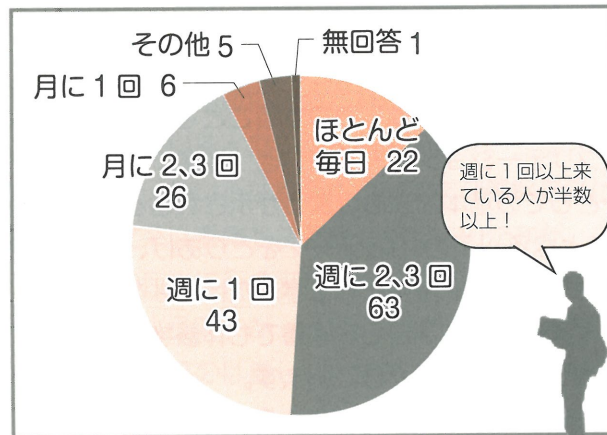
Pt.1 アンケート結果から、普段皆さんがどのように利用しているかが見えてきました。

対象：南山大学図書館（名古屋・瀬戸）来館者
有効回答枚数166枚（名古屋：143、瀬戸：23）

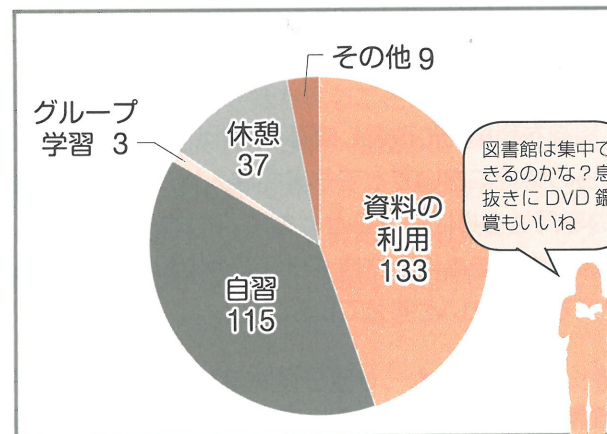
1 あなたの大学での身分を教えてください



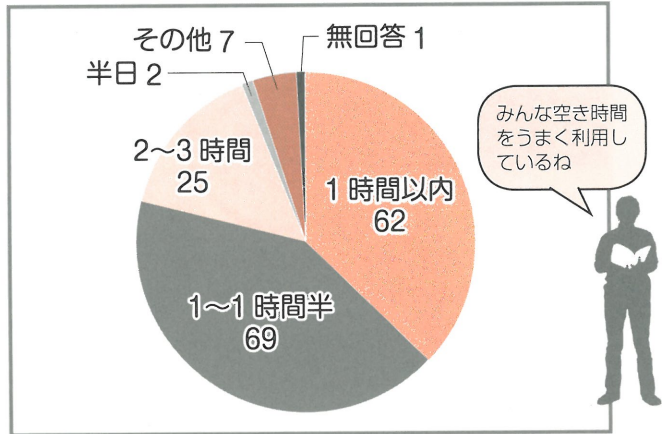
2 図書館をどれくらい利用しますか



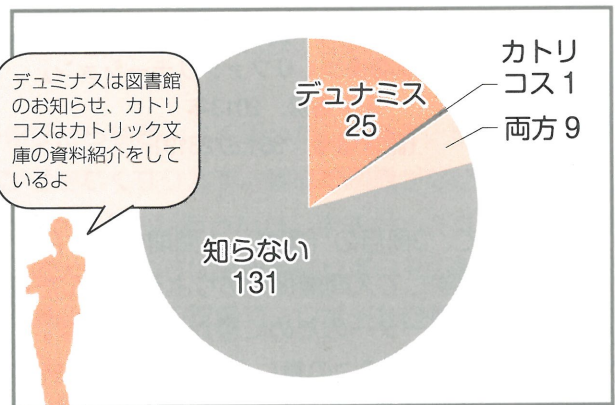
3 利用の目的は何ですか（複数回答可）



4 滞在する時間を教えてください



5 南山大学図書館が発行する出版物で知っているものを選んでください



6 図書館にあるお気に入りの一冊があれば教えてください

- ・『本屋さんで待ちあわせ』三浦しをん 著
請求番号：BROW/O10/12
- ・『日本架空伝承人名事典』新版
大隅和雄 [ほか] 編集委員
請求番号：R/281L/210/A
- ・『ロンドン・ベストの恐怖』ダニエル・デフォー 著
請求番号：B936K/205
- ・『Red Dog』
Louis de Bernières ; retold by Jennifer Bassett
請求番号：EZ7/-027260
- ・『大学生のためのドラッカー』松本健太郎 著
請求番号：BROW-L/150/18

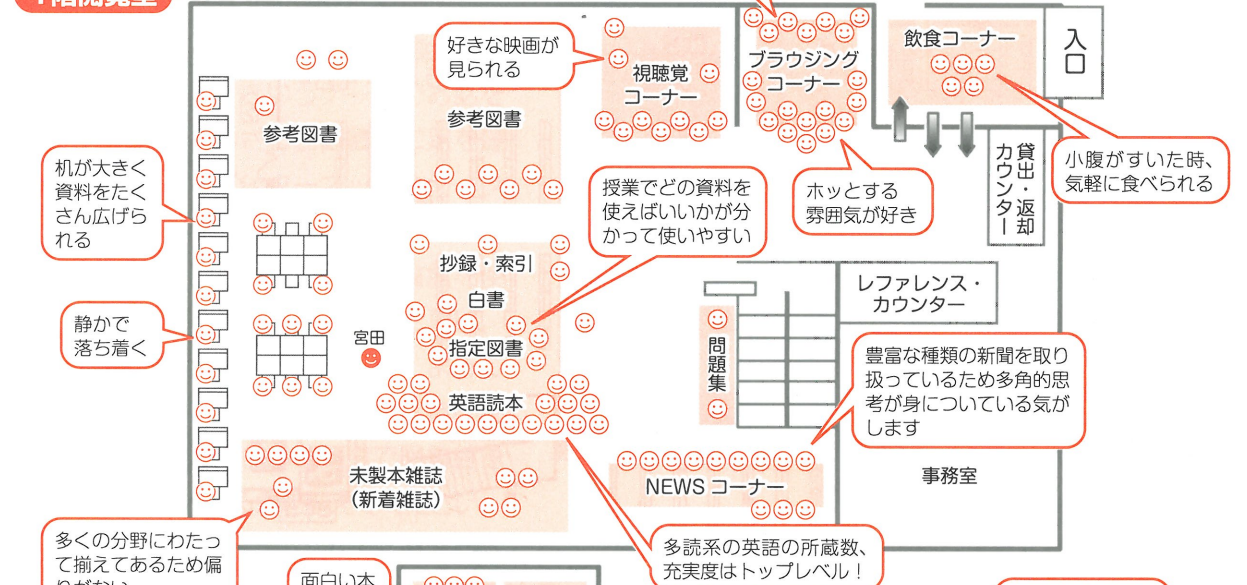
他にもたくさん挙げていただきました。
ご協力ありがとうございました！

- 7 よく利用する、またはお気に入りのスペースを教えてください
- 8 7で回答された場所の良いところを自由に記入してください

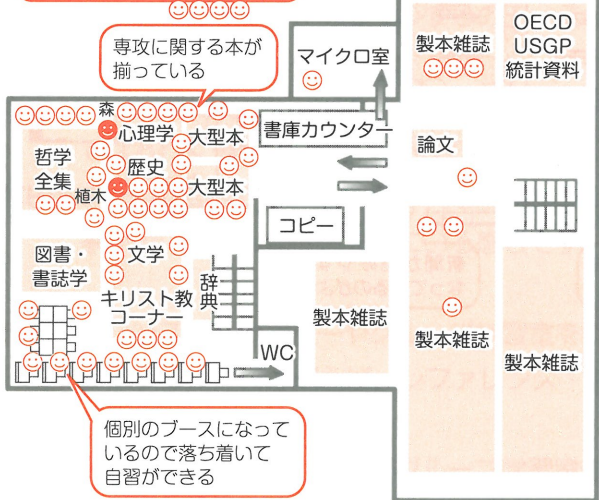
☺ …座談会参加者の
お気に入りスペース

名古屋図書館

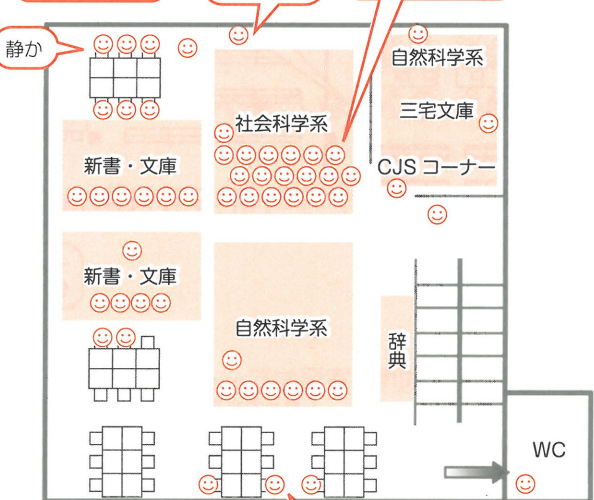
1階閲覧室



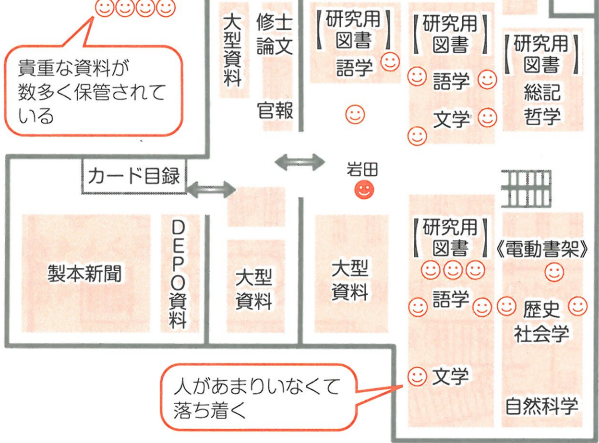
地下1階閲覧室・書庫



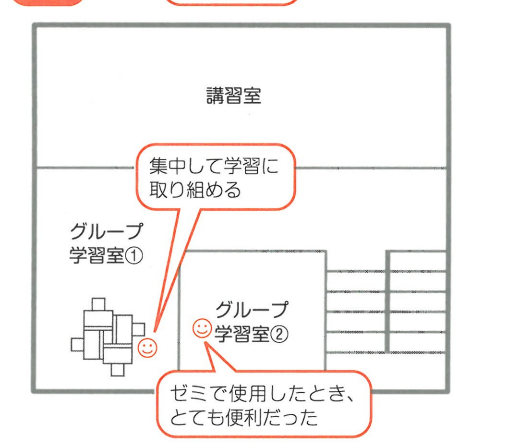
2階閲覧室



地下2階書庫



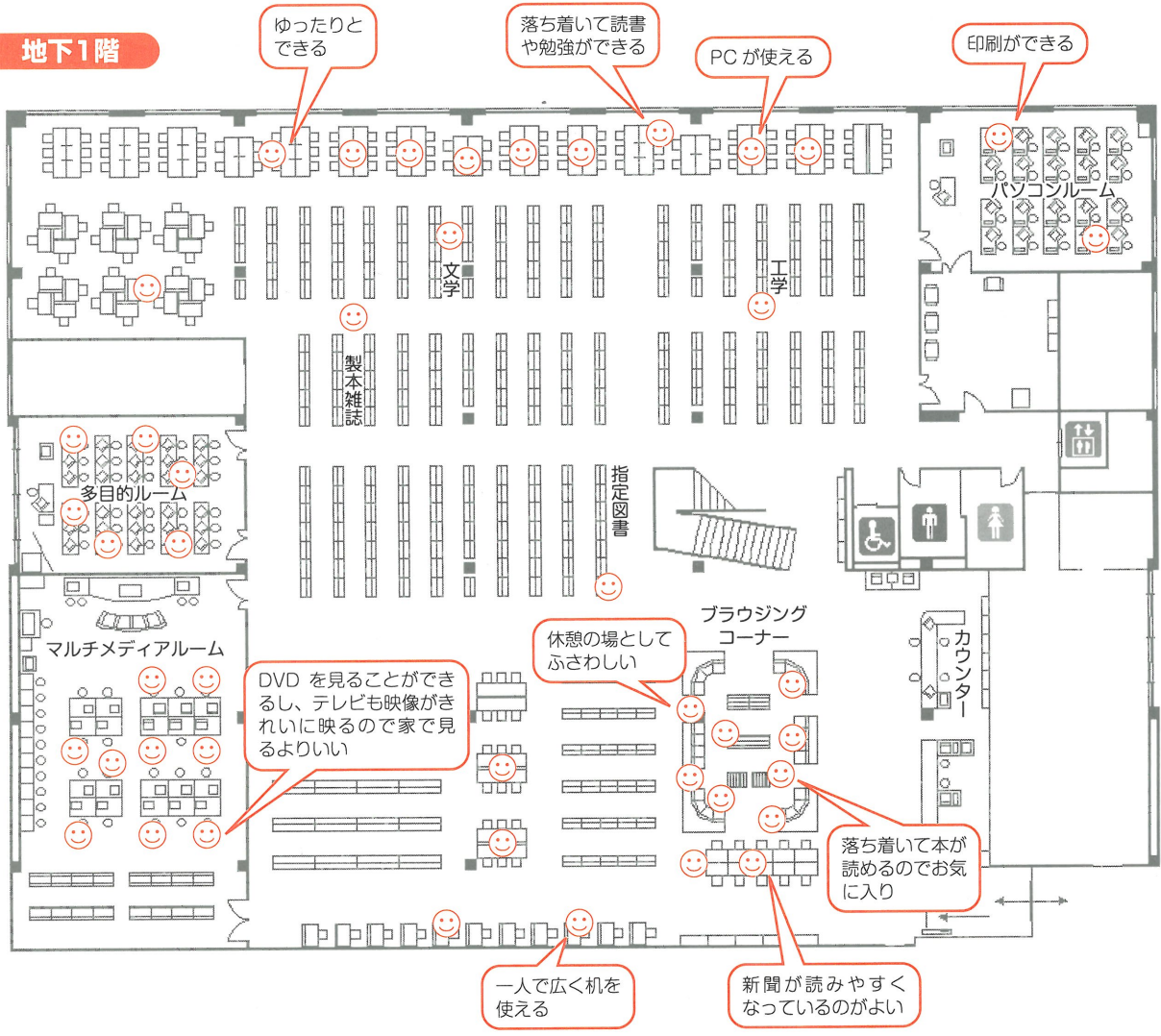
3階



*名古屋図書館は個人机や英語読本、ブラウジングコーナーが人気。

瀬戸図書館

地下1階



1階



* 落ちつく、ゆったりできるという意見が多い瀬戸図書館でした。

Pt.2 座談会 一人類文化学科生に聞く

Pt.2 座談会では、日々の利用の仕方から図書館に対する期待まで、学生の皆さんに語っていただきました。

■どのくらい図書館を利用しますか

司会▶今日は皆さんにとって図書館ってどんなところ?というテーマでお話を伺います。わざわざ図書館に足を運ばなくてもインターネットやデータベースを使って情報を得られるようになりましたが、あえて図書館を使うという「意味」を知りたいと思い、この座談会を企画しました。よろしくお願ひします。では簡単な自己紹介と、どのくらいの頻度で図書館を利用されているかを教えてください。



座談会の様子

- 森**▶3年の森功樹と申します。黒沢ゼミです。図書館はそんなに頻繁ではありませんが、月に3回か4回くらいですね。勉強のために利用しています。
- 植木**▶同じく3年の植木萌と申します。彼と同じ黒沢ゼミです。図書館はだいたい週に1~2回くらい来て、結構空きコマがあったりするので、その時間にちょっと本を読みに来たり、自習をしに来ています。
- 岩田**▶4年の岩田玖子と申します。吉田ゼミで、今はあまり授業もないので来ていませんが、卒論に向けてなるべく週1で通うようにしています。
- 宮田**▶4年生の宮田です。ゼミは鈴木貴之先生です。結構自分は毎日来ていて、授業の予習をしています。家が近いので大抵は図書館にいる感じです。

■レファレンス・カウンターやグループ学習室を利用しますか

- 司会**▶自習する以外には例えば、レファレンス・カウンターや3階のグループ学習室を利用することはありますか。
- 森**▶そこは使ってないですね。グループ学習室も。
- 植木**▶私も基本的にはレファレンス・カウンターを利用しないで、自分で探すという感じですけど、どうしても探している本が見つからなかったり、検索方法がわからない時に利用します。
- 司会**▶授業で必要な本を探しに図書館に来て、その分野のところで探すという感じですか。
- 植木**▶本のタイトルがわかっていたら、PCで検索してどこにあるかを探します。予約や取り置きができるということは知っていますが、その使い方がわからない時に尋ねました。
- 岩田**▶私も二人と一緒に、自分で検索して、自分で解決していましたが、多くの先生から、もし気になる文献がなければちゃんと聞きに行きなさい、と言われるですね。
- 司会**▶よく言われている?
- 岩田**▶はい。私はゼミの卒論に関係するものが偏っていて、これから英語や別の言語のものが増えてくるので、そういう意味では今後使っていきたいとは思っています。
- 宮田**▶この資料がどうしても早く欲しいのに、見つからないという時にレファレンスを利用します。グループ学習室は4年間で数えるくらいです。ゼミの仲間や、図書館でばったり会った人と話す時に使います。

■図書館のお気に入りの場所は？ (p.5参照)

司会 ▶ さて、この図書館の中でお気に入りの場所があったら、例えば、ここに座ると落ち着くとか、外の景色がよく見えるとか、その理由も合わせて教えてください。

宮田 ▶ 1階の学科の指定図書に近い時計があるところですよ。来た時はそこに大抵座ります。家が近いので、高校生の時からこの場所を利用していました。高3の時は学校が終わってから、9時頃に図書館に着いて、1時間くらい自習していました。今、高校生は8時までしか利用できなくなったみたいですが。あと書庫にある資料を探しに行くのが結構おもしろいです。他には指定図書をよく使っています。

岩田 ▶ 人文系だと、1階と2階の見る棚がだいたい決まってきました。

司会 ▶ 自分の専門に近いところに頻繁に行くのですね。

岩田 ▶ そうですね。でも書庫にしかない論文だと書庫に行きますが、あの自動のところが怖くて。

司会 ▶ 電動書架のところですか。

岩田 ▶ そうです。結構、音が大きいからびっくりしますが、人が少ないので集中して調べることができ、書庫は好きです。

植木 ▶ 私は地下かな。地下1階に考古学のコーナーがあって、大きい机があるんですけど、そこでよく本を読んでいますね。自習したいなと思ったら、1階の奥の小さい自習用の机によくいます。あとは今、使っている『大垣市史』は書庫にしかないの、よく書庫に行くんですけど、あの電動の棚がちょっと怖いんですよね。

岩田 ▶ 挟まれそうで、怖いよね。一回棚が動かなくなってパニックになりました。

植木 ▶ 棚が空いてないとボタン押すのが怖くて、あきらめて帰ったりしますね。間違えて壊したらと思うと、怖くてボタンが押せなくて。

森 ▶ 自分では右を開けるつもりが、ボタンを押したら左が開いて、あれっこちらが開くってのが何回かありました。僕は図書館に来たら、絶対地下1階のここに座るんですよ。このひとつずつ席のあるところに。自分でもなぜだかわかってなかったんですけど、今の話を聞いていたら、多分自分の勉強する本がある近い場所に座ろうという意識からだということに気付きました。もう、何があっても絶対ここです。だからここが自分にとっての図書館のお気に入りです。



司会 図書館事務課
逐次刊行物係 菅野均美



岩田 玖子さん

■わざわざ図書館に来る理由は？

司会 ▶ さて、スマートフォンやタブレット端末が手元があれば、図書館に来なくても、それで調べて、レポートを書けるようになりました。皆さんは授業の合間に図書館を利用しているとのお話でしたが、例えば図書館の資料を借りて、それを家で使うこともできると思いますが、なぜ図書館という場所を選んで、わざわざ足を運んで来てくれるのでしょうか。

森 ▶ 家では集中できない。これが第一の理由です。テスト勉強があると結構頻繁に図書館に来ます。家では「やらないと！」という気持ちはあるんですけど、座るとスマホを触ったり、ツイッターは5分単位で見えてしまいますし、ネットで何かしてしまうので、それだったら、図書館に来てやろうと思います。

図書館ではスマホやPCも触らないことに決めています。全部リュックの中に入れてしまいます。

植木 ▶ 私は課題の作成にはPCが必要なので、図書館で本を借りてJ棟へ行ったり、家に持ち帰って家で書きます。自習のために図書館に来て1～2時間過ごすこともあります。本が読みたくてくる人が多いです。ネットや携帯で読むと目が疲れてしまうので、本は紙で読みたいと思います。本屋で買わなくても、図書館で調べて読みたい本があれば、机も椅子もあるし、すぐ読める。授業に関連する本は読んでいても図とデータしかないのが退屈だし、もともと小説を読むのが好きなので、そういうのが読みたいなと思った時に来ます。

岩田 ▶ 私は本もちろん借りますが、読まなければならない資料を10冊とか一挙に借りたい時は重いので、必要な箇所をコピーして使っています。また線を引かないと読めないタイプなので、図書館でじっくり読むというのはあまりなかったです。あとはテスト前にすごく混むのが嫌で、それ以外のちょっとすいてる時にTOEICや資格の勉強のために1～2時間利用しています。授業の空き時間にフラフラしたり、友達としゃべるのもいいんですが、それは休憩時間に空き教室やコパンでもできます。家だとスマホを触っちゃうし、テレビもある環境なので、高校生の受験勉強の時のように時間を区切って、しっかりやるという場所が図書館かなと振り返ってみて思います。図書館を使って集中するということをしています。

宮田 ▶ 集中するためにというか。勉強するのが好きだから本が好きだからというより、「これを何とかやらなくちゃいけない」というのがあって、それをやるために図書館に来ている感じです。自分は、勉強を部屋ではあんまりやれなかったりします。家だとすぐ冷蔵庫を開けてしまいます。家では集中力がすぐ切れてしまうので、集中できる場所として図書館に来ます。わからなくなった時にすぐに調べられるし、いろいろな本も置いてある。コンピューターがないと調べられないし、スマホでの勉強にも限界があります。周りの人の勉強する姿が励みにもなります。学びの場として使っています。

司会 ▶ キャンパス内のいろいろな建物がある中で、図書館の静かな雰囲気と周りの方も勉強している環境で、自分も集中して学ぶ、本を読む、自分の時間を無駄にせず過ごすことができるという図書館の魅力や価値をみつけて来てくださっているのだなあということがよく分かりました。

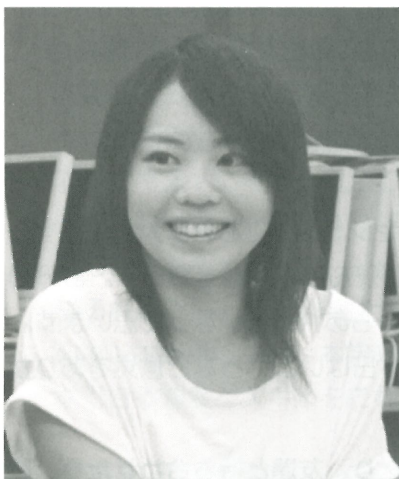


宮田 裕史さん

■電子書籍や電子ジャーナルについて

司会 ▶ もうひとつお伺いしたいのが、電子書籍が世の中に出回ってきていて、実は大学内でも電子書籍や電子ジャーナルをどんどん入れて行こうという動きがあります。みなさんはこうした電子媒体の資料を使いたいと思いますか。それとも紙派？

植木 ▶ 私は紙の方がいいです。雑誌や学術雑誌は紙の方がいいと思います。ちょっとした写真の多い雑誌は電子媒体でもいいなと思いますが、アルバイトでPCを使うことが多いので、仕事以外でPCを使いたくないなと思っていることもあって…。また小さい時から親が本が好きで、ずっと紙の本に親しんできたので、今更、電子書籍で読むのは読みにくいだらうし、実際読みにくかったのが、できれば紙の方がありがたいですね。

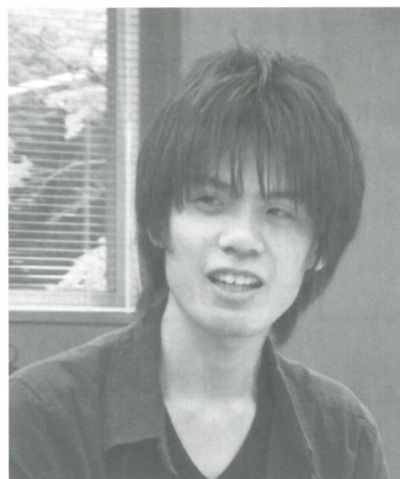


植木 萌さん

宮田 ▶ 300ページくらいの電子書籍とかはきつい。報告書とか10ページ程度なら電子書籍でも構いません。ただ電子書籍ではこれを読んだという達成感がない。本は手に置いておきたいとも思いますが…。

岩田 ▶ 私は逆かな。薄い本なら持ち運びできるし、軽いし、カバンに入るから紙でいいと思う。逆に論文集みたいな太くて重い本が電子媒体であれば、タブレット一つでどこでも読めて便利だと思います。図書館でしか読めないなら仕方がないけれど、家に持ち帰ることができて、なおかつ自分の使いたいものがタブレットで読めるなら、電子媒体がいいかな。

森 ▶ 僕は紙がいいと思っています。今までずっと紙でやってきたのと、使ったことないのでわからないけど、指紋なんか気にならないのかなとも思います。今の小・中学生はみんなタブレットに移行するんだろうけど、やっぱり紙媒体の方が絶対いいと思うんです。むずかしいなあ。紙で読んで、どんどんページがめくって行って、もう終るな、みたいな感じがいい。タブレットで表示されるより楽しいと思う。



森 功樹さん

■南山大学図書館への要望

司会 ▶ ありがとうございます。それでは最後にこれからの南山大学図書館がもっとこういうふうになったらいいな、とか、またはこの機会だから、ここをこう変えてほしいとか、自由にご意見を聞かせてください。

宮田 ▶ 勉強する場がもっと増えて、もっと開館時間が伸びたらなと、よく思ったりします。時間と場所がほしいです。8時になるとJ棟が閉まり、印刷ができなくなります。家に印刷機がないので困ったりします。ワールドプラザとかD棟には学生交流センターがあったりしますが、これらが図書館と一つの場所に統合されたらいいなと思います。他大学のように図書館にレポートの書き方を教える人がいると良いなとも思います。三重大学の長澤多代先生の授業で、レポートの書き方とか図書館のいろいろな機能について学び感銘を受けました。

植木 ▶ 人文系は書庫を使う機会が多いのですが、入庫の手続きが結構厳しいので、もう少し書庫と開架部分を自由に行き来できればいいと思います。他の学部の話を見ると、あまり文献を使わない場合もあるようですが、人文系ではかなりの量の文献を読まなければなりません。たくさんの本を借りて、持ち帰るのは厳しい。また、重要な資料で貸し出せない資料も多いので、借りられないなら館内で内容を見ながら、レポートを書くために、自由に使えるPCを増やしてもらえるとよいと思います。

司会 ▶ 文献を使ってそこでレポート作成もできるような場所や環境があるといいということですね。

岩田 ▶ 書庫に入る時にロッカーに荷物を預けるわけですが、鍵もないので盗難が心配です。

森 ▶ 地下1階の僕がよく使う所ですが、検索性PCをあと1～2台程度、増やしてほしいです。

植木 ▶ ノートPCを持ち込むことはできますか。

司会 ▶ キャレルのコンセントを使っただけであればできますよ。柱のコンセント以外であれば大丈夫です。

植木 ▶ レポートを書く時、ネット検索が便利ですが、南山は無線LANが飛んでないなと思って。自分の学籍番号を入れると無線LANが学内で使える大学もあります。いつもあれほしいなって思います。

司会 ▶ 皆さんから頂いたご意見を館内で共有していきたいと思います。本日はいろいろなご意見をありがとうございました。

予習復習のために勉強をしたり、本を読んだり、授業に必要な本を探したり、友達と待ち合わせたり、時にはお昼寝場所だったり。あなたにとっての図書館は、どんな場所ですか？



図書館研修を体験して

平川 真帆

私は春学期の間、図書館研修生として活動させていただきました。活動内容は、図書館利用講習会の補助員と、掲示板の制作です。

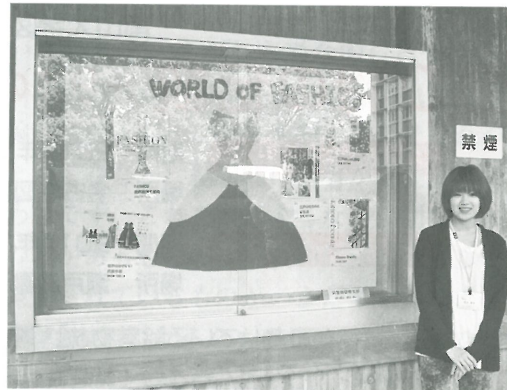
図書館利用講習会の補助員

図書館利用講習会は、新入生を対象とした図書館のガイダンスで、私自身も1年生の頃に参加しました。今でこそ図書館の利用方法がわかりますが、1年生の頃はわからないことも多く、とても参考になったのを覚えています。私は今回補助員として参加させていただきましたが、講師の方がとてもわかりやすく図書館の利用方法についてお話されていてすごいと思いました。自分が1年生の頃講習会を受けていたときには気づきませんでした。学生が理解しやすいように画像を使用していたり、実際にOPACを使いながら説明を行っており、講習を受ける人のことを考えて説明されていました。また、このような講習会は図書館利用の正しい知識を広めるだけでなく、多くの人に広く図書館を利用してもらうための大切な業務なのだと知りました。

掲示板の制作

もう一つの活動として、図書館入口の掲示板の制作をさせていただきました。掲示板の制作にあたり、まずどのようなテーマの本を紹介するかを決めます。多くの綺麗なカバーを見せていただき、その中から興味をもってもらえそうなテーマを探しました。今回はファッションに関するカバーがいくつかあり、私の興味のあるテーマでもあったので、ファッションに関する本を紹介することに決めました。テーマが決まると、次はどのようなデザインにするか決めていきます。今回はテーマがファッションだったので、女の子がつい見たくなるような可愛いデザインを意識し、ドレスのモチーフを真ん中にもってくることにしました。

そして掲示板作りに入っていくのですが、実際に掲示板に張る台紙（一番下の紙）を見るとかなり大きく、驚きました。普段掲示板を見ていてもそんなに大きいと感じることはなかったので、自分一人で上手くできるか不安でしたが、多くの職員の方に手伝っていただき、なんとか完成することができました。掲示板に完成したものを張ってみると、私が考えていた可愛らしい掲示板になっていて嬉しく思いました。一人でも多くの方が掲示板を見て、本に興味をもってもらえたらと思います。



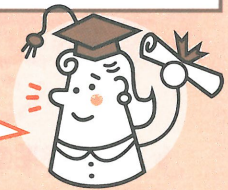
今回は今まで知らなかった図書館の活動を少しですが体験することができ、非常にいい経験になりました。また、多くの人に多くの本を知ってもらうために、図書館が様々な活動をしていることを知り、これから積極的に参加したいと思いました。

(HIRAKAWA, Maho : 図書館研修生)

2014年度 秋学期図書館利用講習会のお知らせ

図書館では、個人・グループ向け講習会を随時開催しています。
内容をあなたのテーマやキーワードに合わせて
カスタマイズするオーダーメイド講習会。

申込みは
1週間前までにね!



授業の空き時間があれば、ぜひお申込みを! たった60分で文献収集のコツをつかめます。
※ゼミ・授業単位講習会の詳細は、PORTA、図書館 Web 等でご案内しています。

名古屋図書館 院生TA紹介



■ 楊 鶴鳴
専攻分野: 経営学

メッセージ

文献収集に回り道していた私の経験が皆さんのお力になれば幸いです。分からないことがあったら、お気軽に声をかけてください。



■ 坂下 凌哉
専攻分野: 人類学

メッセージ

レポートや卒論の参考文献探しに困ったら、お気軽にレファレンス・カウンターに。一緒に探すところから自分でできるまで、サポートします。



■ 田中 達彦
専攻分野:
幼児の言語獲得

メッセージ

幼児の母語獲得の研究をしています。言語学の資料を探さ際、分からないことがありましたら遠慮なくご相談ください。

南山大学図書館 秋の企画展

語り絵の伝統 -日本のマンガ・アニメ文化の源流を探る-

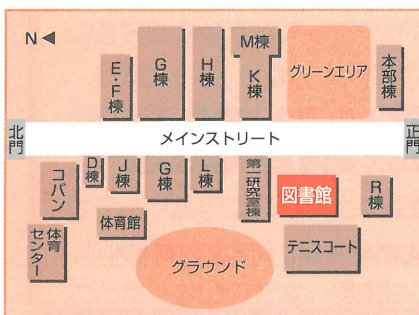
名古屋キャンパス 期間 2014年10月28日(火)~11月9日(日)
場所 名古屋図書館 ブラウジングコーナー

瀬戸キャンパス 期間 2014年11月15日(土)~11月23日(日)
場所 瀬戸図書館 ブラウジングコーナー横

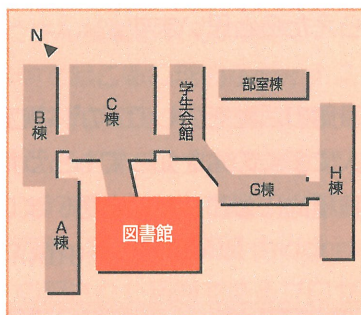
図書館が所蔵している絵巻物、絵草紙など、時代ごとの「語り絵」を紹介しながら、現代のマンガやアニメにつながる「語り絵」の歴史変遷を辿ります。

《編集後記》

今回のアンケートと座談会は広報委員にとってはちょっとしたチャレンジ企画でした。皆さんの声をきちんと形にできるか心配でしたが、こうして出来上がりほっとしています。座談会では学生さんの生の声も聞くことができ、とても新鮮でした。(菅)



<名古屋キャンパス>



<瀬戸キャンパス>

南山大学図書館報 デュナミス No.66

2014. 10. 1 発行

<http://office.nanzan-u.ac.jp/TOSHOKAN/>

発行: 南山大学図書館 広報委員会

編集委員: 山辺、菅野、近藤

印刷: 一誠社

〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18

Phone:052(832)3707/Fax:052(833)6986

※図書館Webページでもご覧いただけます。